



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 東京都区文京小塚
〒112-0004 電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価 年3,000円
(会費は会費に含まれています。)

木材アドバイザー養成講習71名が合格

当連盟は、4月4日(火)、東京都文京区の日本森林林業振興会会議室で、「木材アドバイザー資格審査委員会」を開催した。委員会には、岡野健東京大学名誉教授をはじめとする講師6名及び当連盟市川英治会長等が出席し、今年2月に東京会場及び福岡会場で開催した「平成28年度木材アドバイザー養成講習会」の受講者について試験結果等をもとに、資格審査を行い、合格者71名を決定した。その結果、制度発足以来、7年間の延べ認定者数は、646名となった。今回の講習では、試験を「木材の見分け方及び知っておくべき事柄」と「それ以外の科目」との2回に分けたこともあって、平均点は、あまり変わらないが、低い得点の者は少なかった。合格者の氏名は、全市連のホームページにも掲載する。また、問い合わせがあれば、名簿の提供を行う。合格者は、以下のとおり(敬称略 五音順)。

- 児島県、池田貴利(長崎県)、石川学(香川県)、伊東栄史(新潟県)、伊東功一(福岡県)、岩井太志(鹿児島県)、内田裕一(新潟県)、内田義則(岡山県)、衛藤文司(鹿児島県)、榎戸勇人(東京都)、柄本司(長崎県)、江本憲史(北海道)、岡本真琴(福岡県)、小川透(長崎県)、小関菜央実(東京都)、甲斐美穂(大分県)、加藤竣也(東京都)、角田善道(千葉県)、河野旭道(岡山県)、菊池玲史(東京都)、草野哲弥(長崎県)、草野洋(千葉県)、栗林誠(東京都)、小芦学(京都府)、興相賢一(福岡県)、小林耕二郎(京都府)、近藤孝昌(大分県)、佐藤芳樹(埼玉県)、茂野太志(新潟県)、鈴木洋(東京都)、鈴木剛幸(福岡県)、砂山亜紀子(石川県)、住和宏(京都府)、瀬川恵利佳(福岡県)、関本隆之(東京都)、高嶋篤(東京都)、高橋孝一(山形県)、武井沙織(東京都)、武内暁男(大分県)、田村弘道(新潟県)、力石清一(神奈川県)、角掛真(福島県)、富沢佳史(新潟県)、中野未織(佐賀県)、中村秀幸(熊本県)、新妻明(福島県)、西園靖彦(鹿児島県)、服田延輝(千葉県)、早田政男(熊本県)、檜山健人(熊本県)、廣瀬敦大(東京都)、藤田理生(新潟県)、藤野智恵子(福島県)、藤原茂九郎(埼玉県)、前田和幸(佐賀県)、南靖弘(京

28年全市連会長賞を決定

平成28年度全市連功労者表彰については、各支部から候補者の推薦を頂き、3月9日(木)に開催した全市連功労者表彰審査選考委員会(正副会長・支部長で構成)で、次のとおり決定した受賞者には、5月15日(月)開催の第62回全市連総会・東京大会の席上で表彰状と記念品を贈呈する。受賞者の皆様の御労苦に敬意を表すと共に、心よりお慶び申し上げます。

- 「東北」浦木隆弘(ナイス株式会社宮城市場)、「関東北」松本司(株)平木(株)市場、「岩間裕一(株)ミトモク)、川嶋直人(株)金平)、永岡弘美(株)金平)、布施薫(ナイス(株)宇都宮市場)、土肥和宏(千葉県木材市場(協))、青木豊実(丸宇木材市売(株))、「関東」桑山裕晶(株)横浜連合木材)、仙波一二(株)横浜連合木材)、「東海」新宅孝敏(飯南木材(株))、長谷正樹(鈴鹿木材(株))、「近畿」上田一元(西垣林業(株))、「中国」横山早苗(真庭木材市売(株))、森山広恵(真庭木材市売(株))、岡田則彦(株)津山綜合木材市場)、西村好彦(株)津山綜合木材市場)、「四国」野口尚芳(株)ゲンボク)、高濱博久(株)太平洋木材市場)、藤田真之(株)久万木

主要木材の需給見通し(平成29年第2四半期及び平成29年第3四半期)

- I 見通しの要点
1. 平成29年第2四半期(4~6月)の需給は輸入丸太、合板及び構造用集成材は前年同期に比べ増加する一方、国産材丸太及び輸入製材品は前年同期に比べ減少の見通し。
2. 平成29年第3四半期(7~9月)の需給は国産材丸太、輸入丸太及び合板は前年同期に比べ増加する一方、輸入製材品及び構造用集成材は前年同期に比べ減少の見通し。
3. 平成29年度の新設住宅着工戸数は貸家着工の減少を反映して前年度に比べて減少すると見込まれる。
II 資料の概要(抄)
1. 一般経済の動向
実質GDP成長率は28年度は前年比+1.3%と2年連続でプラス成長見込。29年1~3月期は、住宅投資は前期比マイナスに転じると思われ、公共投資はプラスに転じ、設備投資の増加基調は維持。29年度は緩やかな景気回復が続く実質G

DP成長率は3年連続でプラス成長と見込まれる。

2. 住宅着工見通

住宅着工戸数は、28年後半は緩やかな減少傾向、29年1月は昨年5月以来の100万戸超。緩やかな貸家着工戸数の減少を予想、消費税率引上前竣工・引渡し見込む大規模マンション建設等一時的に着工戸数が高水準で推移する可能性。住宅着工戸数予測の平均は28年度96・2万戸、29年度92・0万戸、30年度93・2万戸。29年度は貸家着工の減少、30年度は「31年10月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要」を見込んでいる。

3. 木材業界の動向

28年12月はプレカットが繁忙気味、需要が米マツから米ツガにシフト。西日本は仕事が忙しい状況、東日本はあまり忙しくない。29年2月は加工動いている、製品の動きは止まってきた感。稼働日数で来月予想は強含み。国産材の加工の仕事は少ない。米マツ・米スギが入っており、国産材の丸太生産量は増も流通は鈍い。

4. 木材輸出の動向

28年の木材輸出量 丸太は65万m³と前年比6%減、製材は8万9千m³で45%増、合板は9万8千m³で61%増。輸出額は238億円で前年比4%増、国別では、中国が90億円で前年比2%増、2位のフィリピンは56億円で60%増、韓国は18%減、台湾は25%減。中国では春節前後に需要減があるが、本年1月は昨年比2倍程度の輸出量。

5. 国産材に関する動向

2月上旬の森連共販平均価格は、スギ

柱用材12、300円/m³、同中目材12、300円/m³、ヒノキ柱用材が15、600円/m³、同中目材15、400円/m³。1月の原木入荷量はスギ微増、ヒノキ微減、大きな変化は無く、一部で雪の影響により出材が滞ったものの、概ね出材が順調。原木価格はスギ柱用材及び中目材共に小幅高、ヒノキは小幅安、スギ原木価格は6月からの続伸、関東や九州の一部では下落も散見。製品荷動きは関東を中心に引き合いの強かった前月から一転し一服感、原木価格は保合予測。

6. 主要木材需給動向

(1) 国産材(需要)

①製材用丸太についての28年第4四半期実績は前年同期比微減。29年第1四半期は前回予測より減少、第2四半期見通は前期並、第3四半期見通は前期より減と予測。プレカット受注残も2月頃から落ち着いてきており昨年同期比べて若干需要減少の見方多い。一部で米材入手しにくくなっており価格も強含との見方から国産材の活用を見込んで昨年同期を超えないと見込む。

②合板用丸太についての28年第4四半期実績は住宅着工の回復、国産材合板へのシフト、輸入合板の減少、フロア合板等への国産合板の需要増、国内合板工場への最大限稼働により前年同期比で増。29年第1四半期は工場稼働日数少なく、冬は熱効率が下がり前年同期比減見込み。第2四半期は前年同期比減少見通。第3四半期は型枠用合板やフロア合板の需要拡大等が期待され、前年同期比増見通し。

(2) 米材(需要)

①丸太

主要木材の入荷量等の概要

(単位：千m³、%) (括弧内は前年比又は前年同期比)

	国産材丸太		輸入丸太	輸入製材品	合板	構造用集成材
	製材用	合板用				
26年計 (実績)	12,211 (101)	3,191 (106)	4,086 (91)	6,430 (84)	6,297 (97)	2,137 (95)
27年計 (実績)	11,835 (97)	3,358 (105)	3,359 (82)	6,132 (95)	5,656 (90)	2,030 (95)
28年第1四半期実績	3,102 (104)	912 (111)	992 (120)	1,598 (110)	1,459 (98)	499 (107)
28年第2四半期実績	3,107 (105)	971 (115)	917 (104)	1,643 (103)	1,450 (105)	555 (109)
28年第3四半期実績	2,870 (104)	891 (114)	789 (105)	1,639 (107)	1,452 (108)	572 (105)
28年第4四半期実績	3,116 (99)	940 (103)	881 (98)	1,580 (102)	1,474 (102)	565 (111)
28年計 (実績)	12,195 (103)	3,714 (111)	3,579 (107)	6,460 (105)	5,835 (103)	2,191 (108)
29年第1四半期見込み	3,050 (98)	900 (99)	781 (79)	1,578 (99)	1,556 (107)	550 (110)
29年第2四半期見通し	3,050 (98)	910 (94)	930 (101)	1,580 (96)	1,480 (102)	565 (102)
29年第3四半期見通し	2,900 (101)	915 (103)	900 (114)	1,563 (95)	1,490 (103)	560 (98)

・28年第4四半期実績は円安、産地価格上昇で影響が懸念されたがプレカット需要が強保合、前年同期比増。29年第1四半期は不需要期も、産地価格上昇、大手工場の動向等から製品価格は米マツ中心に強保合で推移。第2四半期は為替によるが、他の外材入量、住宅着工、供給量、在庫とも変化要因少なく、製品生産量、価格も堅調保合が予想、前年同期比、供給量、在庫とも少ないが大きな変化はない。第3四半期は住宅着工の動向によるが入荷量少ない中、在庫の一段底予想。為替の変化ない前提で価格は10%、生産量も10%程度上昇する可能性、需要はほぼ前年並見通し。

②製材品

・28年第4四半期実績は円安、入荷減と

思われたが、前に契約したものが予想外に入り荷は順調、プレカット工場の稼働率も良かった。29年第1四半期は円安で採算厳しく入荷絞られつつあり、この傾向はしばらく続く。第2四半期は年間を通して昨年程度の住宅着工数予想と貸家の減少から85〜86万戸台の予想に分かれ、木材需要全般にやや低迷。第3四半期はアメリカの利上げを契機に為替がどう動くか。

(3) 欧州材(製材品供給)

・28年第4四半期実績は第3四半期のラミナ買付時の相場が前期買付時比高値。製品が出る29年第1四半期には需要が落ち込むとらむ集成材メーカーには厳しい価格、前回予測より減少。29年第1四半期は29年4月以降は需要が戻り、買い

付けが進み例年通りの納入の見込み。第2四半期は円安進行等から買い気が弱腰になる見通し。WW問柱の最大企業が3月積みスキップも影響の可能性。第3四半期は第2四半期のラミナの買付、4月のWW問柱の交渉の行方により大きく変わる可能性、住宅着工数が昨年より減少、前年比減少の見通し。

(4) 南洋材

①丸太(製材向け需要)

・28年第4四半期実績は供給量の調整により前期より増。29年第1四半期は、丸太入荷は少ないと予想、出荷増もないと予想。第2四半期及び第3四半期は供給に見合った需要で前年同期並見通し、現地出材状況が大きく影響。

②製材品(需要)

・28年第4四半期実績は住宅・非住宅着工の好調な動きも見られ実需増。29年第1四半期は円安基調や問屋在庫が多くな前年のような動きはない。第2四半期は底堅い需要、大きな振れはない見通し。第3四半期は住宅着工の減少予想、公共事業等の需要が出てくると思われ前年並見通し。

(5) 北洋材

①丸太(需要)

・28年第4四半期実績は、昨年同期比減。29年第1四半期は製材向けアカマツの入荷が予想以上に悪く前年同期比減の見込み。合板向けカラマツ入荷に期待。第2四半期及び第3四半期は前年同期水準で推移。

②製材品(供給)

・28年第4四半期実績は例年並、中級クラスの商品(原板、完成品)が安定的に

供給され昨年並みの数量に達したと思われ。29年第1四半期は1月約50千㎡と低調、前年同期比減少の見込み。第2四半期は例年並みの供給量の見通し。第3四半期は夏の集材状況によって波のある時期、天気次第も前年並の見通し。

(6) NZ・チリ材

①丸太(需要)

・28年第4四半期実績は原木高騰を理由に、年明けからの製品値上げを各社が打ち出し、第4四半期の需要を多少喚起と推測。29年第1四半期見込みは製品値上げが進まず前年並み需要維持と予測。円安下の高需要期に輸出伸びず不安材料(梱包需要)。第2四半期は為替を加味しNZ原木価格が過去最高値圏に入り顧客は国産材に流れる、トランプ政権の保護主義により梱包需要減少を予想、4月末から9月までは例年低需要期。プラスチックはチリ製品の入荷が森林大火災の影響で1ヶ月程度遅れ込み、入荷遅れ欠品を埋めるための一時的需要が内地挽き注文として生まれると予測。第3四半期は例年低需要期で場合により前年並みに落ち込む可能性。

②製材品(需要)

・平成28年第1四半期の実績は秋需が予想以上に需要を牽引し増加。平成29年第1四半期はチリ材の発注から入荷までの納期が3ヶ月超と長く、円安前の為替適用の材が第1四半期に入荷するため、内地挽き製材品に比べ価格競争力があり安定した需要確保を予測。第2四半期は1月下旬に発生したチリ森林大火災の影響で入荷が1ヶ月ずれ込み、昨年11月以降定着した円安為替でコストアップとな

り、低需要期と重なるため需要減と予測。第3四半期は例年の低需要期、国際貿易の動向が保護主義台頭で、読みづらくなっているが前年同期比減少の見通し。

(7) 合板

①国内製造(需要)

・28年第4四半期実績は新設住宅着工好調で大手ハウスメーカー、大手プレカット工場とも針葉樹構造用合板手当を拡大。中小工務店・ビルダーも手当を進め需要はピーク。合板メーカー在庫も少なく納期遅れ恒常化。29年第1四半期は大手ハウスメーカー及び大手プレカット工場の手当て一段落、手持ち仕量の消化進めている。中小工務店・ビルダーは納入遅れの商品待ち状況、新規発注は商品入荷後の検討。需要は中国、九州地区は旺盛、その他は落着いており地域間格差が出ている。第2四半期は大手ハウスメーカー、大手プレカット工場とも先行きの住宅受注を見極め当面の仕量の発注を行う。中小工務店・ビルダーは焼失した大手合板メーカーの生産再開で供給力の増加を睨みながらの手当。フロアリング針葉樹合板の需要は増。第3四半期の針葉樹構造用合板は大手ハウスメーカー並びに大手プレカット工場とも厚物を含め手当を行うと考えられる。中小工務店・ビルダーも供給に余裕が出るメーカー姿勢を睨みながらの手当、在庫積み増には至らず。オリ・パラ用施設の針葉樹型枠合板を一部型枠納材業者が手当を進める。

②輸入(需要)

・28年第4四半期実績の輸入構造用合板は国産針葉樹構造用合板の供給遅延で代

替需要増大、港頭在庫大幅減。輸入型枠用合板は公共建設工事の遅れと首都圏でのマンション建設落込みで需要が減少。29年第1四半期は入着遅れの輸入合板が順調に入荷、港頭在庫増加。国産針葉樹構造用合板の代替需要続くも、輸入型枠合板需要低調。フロアリング用合板需要は国産針葉樹合板の供給が増えずフロアリングメーカーは購入を続け好調キープ。第2四半期は家具・厨房等産業用需要の薄物合板・中厚物合板はカラー・プリント製品合板が合板から繊維板へ転換続き、台板用需要は減少。12mmの構造用合板需要は国産針葉樹合板の供給増加で、輸入構造用需要は落ち込むと思われる。第3四半期の型枠用輸入合板は需要増も、逼迫には至らず。

(8) 構造用集成材(供給)

①国内製造

・28年第4四半期実績は荷動き非常に堅調、メーカーフル操業続け、受注残も減らない、プレカット需要も堅調。10月、11月の生産量は高水準、12月の生産量も10月並みの生産量、25年以來の高水準。29年第1四半期は例年生産量は落ち込む傾向、未だ荷動きは堅調、一部まだ不足感。前期よりやや落ち込むも、ほぼ同水準維持見込み。第2四半期は需給落ち着つきつつあるが、ほぼ前期並み生産量見通し。第3四半期は秋需等も期待、前期比で大きな落ち込みなく、ほぼ前期並みの生産量を見通す。

②輸入

・28年第4四半期実績はルーマニアからのRW梁が8,000㎡/月供給安定期に入り、ポーランドのJAS認定工場製

品が出荷ストップ、3,0000〜4,000m³/月が減少。29年第1四半期は前期同様、需要も安定、前期並見通し。第2四半期はポーランドの工場の稼働再開が遅れ、ウクライナからのRW丸太禁輸措置の影響を受け3,000m³/月が減少、第3四半期はポーランドの工場が2〜3月に稼働再開し、生産安定すれば3,000〜4,000m³/月入荷。

■木構造振興「補助事業成果発表会開催」

平成29年3月16日(木)、木構造振興(株)(山田壽夫社長)は、東京江東区の豊洲シビックセンターホールにおいて、平成27年度林野庁補助事業「地域の特性に応じた木質部材・工法の開発・普及等支援事業」の成果報告会を開催した。冒頭、同社の西村勝美相談役は、「ここ数年国産材を対象とした部材・工法の開発が進んでいる。国産材の安定供給に対する期待もあって100件を超える提案があった。国産材に対するニーズの高まりを感じる。」旨挨拶した。成果報告会では、秋田木高研 林知行所長が「CLTを床版に用いた橋梁補修の実用化に向けた実証試験と耐久性付与技術の開発」を、JBN 青木哲也氏が「スギ等の木材を仕上げ材に使った準耐火構造外壁および間仕切壁の開発」、清水建設 貞広修氏が「CLT等の高耐久力耐震要素を用いた中高層木質ハイブリッド架構の開発」を、北海道林産試験場 大橋義徳氏が「多層構成による道産カラマツCLTの長期性能評価」を発表するなど、注目を集めるCLTだけでなく、幅広い分野での研

究成果が発表された。地域材を活用した新たな用途での木材需要の拡大を期待したい。

■29年「みどりの学術賞」決定

「みどりの学術賞」は、「みどり」についての国民の造詣を深めるために、国内において植物、森林、緑地、造園、自然保護等に係る研究、技術の開発その他の「みどり」に関する学術上の顕著な功績のあった個人に内閣総理大臣が授与するもの(平成18年8月8日閣議決定)。

●丸田 頼一(千葉大学名誉教授)

「功績概要 都市の緑地が持つ微気象の緩和などの多面的な機能と緑地計画に関する研究を進め、都市の公園緑地から冷涼な空気が市街地に浸透する「にじみだし現象」の存在や、市街地周辺部から都市部に向かって風が発生することを実証的に明らかにするなどの先駆的な成果を挙げた。また、ドイツで開発された「風の道」の手法を参考に、ヒートアイランド現象の緩和のため緑地を効果的に配置する日本型の「風の道」を提唱。この成果は政府の「ヒートアイランド対策大綱」に反映され、多くの都市の「緑の基本計画」に盛り込まれるなど、都市における熱環境の緩和と低炭素型まちづくりに資する緑地政策の展開に大きく貢献。」

●沈 建仁(岡山大学異分野基礎科学研究所教授)

「功績概要 植物の葉緑体の中で光合成を通じて酸素が発生する際に触媒の役割を果たす「光化学系II」というタンパク

質複合体について、原始的な光合成生物シアノバクテリアから高解像度で解析可能な結晶をつくり出し、原子レベルでの構造を明らかにした。この成果は基礎科学としての光合成研究にとどまらず、太陽光エネルギーの人工利用(人工光合成)の実現に向けた研究の進展にも大きく貢献。」

授賞式は、平成29年4月28日(金)に開催する「みどりの式典(於：東京都内)」において行われる。また、日本科学未来館との共催により、受賞者による記念講演会を、後日開催する。



(丸田頼一氏)



(沈建仁氏)

雑 記 帳

仏教の宗派によって、法事やお盆になると、お墓に卒塔婆(板塔婆)を立てる。御先祖様の戒名や、経が書かれた長細い木板である。もともとは、お釈迦様の遺骨の仏舍利を納めた塚のサンスクリット語「stupa」が語

源とのこと。インド、中国等を経て日本に伝わり、五重塔などの塔となる一方、平安末期ないし鎌倉初期から板塔婆が使用されるようになったとのこと。全国では年間一千万本以上使われるとも言われる。色々サイズがあるが、長さ1・2m程度のを想定すると、製品材積で大凡8千m³程度(原木で2万m³前後か)。白く、節がなく、匂いがないことが求められる。かつては、国内のモミ(Abies firma)が使われていたが、資源的な問題もあり、最近では、ドイツから欧州トウヒ(Picea abies)が輸入され多く使用されていると言う。お墓にも国際化の波が押し寄せている。最近では、国産材利用の機運の高まりもあって、国産のスギ製のものも登場し、その需要も漸増しているそうである。人工林の主要樹種であるスギやヒノキの利用が進むことを期待すると共に、材の白さなどに注目すれば、山梨県などのシラビソ人工林材の活用、北海道のトドマツ及びエゾマツの人工林材等の活用の可能性もあるのではないかと。材積当たりの製品単価は、m当たり10万円単位の価格となり、A材需要の拡大が課題となっている。身近などならない需要先かもしれない。身近なところの木材利用についても、もう一度考えた